

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21720321

研究課題名(和文)南インドにおける神霊祭祀と憑依儀礼に関する人類学的研究

研究課題名(英文)An anthropological study on buuta worship and spirit possession in South India

研究代表者

石井 美保 (Ishii, Miho)

京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：40432059

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円、(間接経費) 1,110,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、インド・カルナータカ州マンガロール郡を調査地として、ブータ祭祀と呼ばれる神霊祭祀を多角的に検討した人類学的研究である。研究代表者は、地域社会のポリティカル・エコノミーを分析するとともに、神霊と人間の交渉について現象学的視座を用いつつ検討した。本研究によって、地域の自然に根ざしたブータ祭祀は村落社会の土地保有制度と母系制、家系ノカースト間の分業と密接に関わっており、故に村落における家系間のヒエラルキーの再構築を可能としていることが明らかになった。また、憑依儀礼における神霊と信者の交渉と託宣を通して発揮される神霊のエージェンシーが、人々の社会関係に大きな影響を及ぼしていることがわかった。

研究成果の概要(英文)：This is an anthropological study on buuta worship in South Kanara, a coastal area in Karnataka, India. Buutas are generally considered apotheosised local heroes or the spirits of wild animals dwelling in the forest. The buuta ritual comprises spirit possession, oracles, and interactions between devotees and buutas incarnated in mediums. This study investigates the history, political economy, and interactions between people and buutas in rural villages. This study explores how buuta worship is closely related to the system of land tenure and land ownership, the matrilineal inheritance system, and the division of labour and services among families and caste groups. Buuta worship plays an essential role in the reconstitution of power relations, social rank, and hierarchies in village societies. Furthermore, this study shows that the exercise of agency by buutas, primarily during spirit possession rituals, exerts a substantial influence on people's social relations and decision-making.

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：ブータ祭祀 インド カルナータカ州 マンガロール 憑依 身体 ポリティカル・エコノミー 母系制

1. 研究開始当初の背景

本研究は、南インドにおける「ブータ祭祀」と呼ばれる神霊祭祀を対象として、憑依を中心とする宗教実践を多角的・総合的に検討するものである。呪術・宗教的な諸現象を対象とする人類学的研究において、憑依は重要な研究テーマであり続けてきた。憑依は分析者による多様な解釈を導く現象であるが、人類学においてはしばしば、社会的な逸脱行動と社会による再統合のプロセスとして説明されてきた。なかでもルイスが提起した剥奪理論 (Lewis 1966) は、憑依と社会構造との関係に着眼する後続の議論に影響を与えてきた。憑依される者の主体性やエイジェンシーに着眼した近年の研究は、社会的弱者による象徴的な抵抗、独自のアイデンティティ構築やモダニティへの参入の手段として憑依現象を意味づけている (Boddy 1989; Kenyon 1995; Masquelier 1999)。このような先行研究の視座に対して、研究代表者はこれまで、ガーナの精霊憑依を対象として、1) 地域社会のポリティカル・エコノミー、2) 西アフリカにおける精霊祭祀の歴史性、3) 憑依と間身体的な相互行為 に着眼した調査研究を行ってきた。これによって研究代表者は、「社会的弱者による抵抗」や「モダニティへの参入」という分析枠組みに還元することのできない、人々の生活実践と地域社会の歴史性、そして身体性と不可分に結びついた憑依現象の動態とその独自の論理を明らかにした (石井 2007)。アフリカ地域を対象としたこれまでの研究の成果と経験を基盤として、本研究では、南インドにおける神霊祭祀と憑依儀礼に関する調査研究を行う。2. でより具体的に述べるように、憑依現象を生み出してきた歴史や社会的・政治的・宗教的背景を異にする複数の地域において、いずれも同程度に緻密で総合的な研究を行うことによって、「憑依」と総称されてきた諸現象にみられる地域的な差異と地域を超えた共通性を考察し、憑依現象への深い理解と新たな視座を開くことが本研究の目的である。

2. 研究の目的

本研究が対象とするのは、南インド・カルナータカ州南部にみられる神霊祭祀と憑依儀礼である。住民の多くがトゥル (Tulu) 語を母語とし、「トゥルの国」と呼ばれるこの地域では、「ブータ」と総称される多様な神霊への祭祀をはじめ、女性の憑依カルトであるシリ (siri) など、ヴェーダ的なヒンドゥー教とは異なる独自の宗教実践がみられる。なかでも大規模な祭りや憑依を伴うブータの祭祀は、「悪魔のダンス」として植民地行政官や宣教師の注目を集めてきた。近年では、現地の民俗学者を中心に、儀礼で詠唱されるブータの由来譚の記録と収集や、祭祀の様式の歴史的・地域的変遷についての検討が進められている (Padmanabha 1976; Upadhyaya and Upadhyaya 1984; Gowda 2005)。このようにブ

ータの祭祀をめぐるのは、その儀礼的要素の網羅的な収集と記述を試みる民俗学的研究の蓄積に対して、地域社会の緻密なフィールドワークに基づく社会科学的分析は稀少である。本研究では、地域社会の政治経済関係や歴史的变化と密接に結びついたブータの祭祀と憑依儀礼について総合的な調査研究と分析を行なう。これによって本研究は、地域社会の日常的な政治・経済・社会関係とその変化、および祭祀と憑依儀礼という両側面からブータ祭祀を理解することを目指す。

参考文献: Boddy, J. 1989 *Wombs and Alien Spirits: women, men, and the Zār cult in Northern Sudan*. University of Wisconsin Press./Chinnappa Gowda, K. 2005 *The Mask and the Massage*. Madipu Prakashanana./石井美保 2007 『精霊たちのフロンティア: ガーナ南部の開拓移民社会における 超常現象 の民族誌』、世界思想社 / Kenyon, S. M. 1995 *Zar as Modernization in Contemporary Sudan*. *Anthropological Quarterly* 68(2): 107-120./Lewis, I.M. 1966 *Spirit Possession and Deprivation Cults*. *Man* 1(3): 307-329./Masquelier, A. 1999 *The Invention of Anti-tradition: Dodo spirits in Southern Niger*. *Spirit Possession: modernity & power in Africa*. H. Behrend and U. Luig (eds.), pp.34-49. The University of Wisconsin Press./ Padmanabha, P. 1976 *Census of India, 1971*, Series 14. Government of India./ Upadhyaya, U.P. and Upadhyaya, S.P. 1984 *Bhuta Worship: aspects of ritualistic theatre*. M.G.M. College.

3. 研究の方法

本研究は、現地調査 文献研究 論文執筆を三本の柱として進められてきた。

4. で詳述するように、平成 21 年度は、両村における戸別調査とインタビュー、儀礼と祭りの観察を重点的に行った。また、地域社会の土地保有システムについての調査を開始した。平成 22 年度は、前年度の調査を継続しつつ、領主一族の土地保有状況について集中的な調査を実施するとともに、地域における母系制とブータ祭祀の関係について調査を進めた。平成 23 年度は、ブータの由来譚の収集と分析を進めると同時に、主に低カースト層の間で流通している呪術的なブータについて調査し、領主層による祭祀と比較検討を行った。平成 24 年度はブータ祭祀に関する調査を継続するとともに、調査地における大規模開発事業の影響について調査を開始した。平成 25 年度はブータ祭祀と開発の関係について現地調査を継続するとともに、研究成果のとりまとめを行った。

4. 研究成果

1) 平成 21 年度実施分: 平成 21 年 8 月から 9 月にかけて南インド・カルナータカ州マンガロール市近郊の農村でフィールドワークを行った。この調査と帰国後の研究実績は以

下のとおりである。調査村落（MP 村）を中心に各世帯への戸別調査を実施し、人口・カースト・ジェンダー・年齢・職業構成をはじめとする基本的データの収集と分析を行った。また、1974年の土地改革法施行以前と以後における各世帯の生業および土地保有状況の変化についての調査と分析を行った。プータ祭祀の中心的な担い手である宗教的職能者らへのインタビューを行った。具体的には、プータ祭祀を組織している複数の領主、霊媒司祭であるムッカルディとパトリ、憑坐となるパンバダヤナリケ、祭祀の一部を担うブラーマン司祭、祭具を取り扱うマディワラらへのインタビューを実施し、トゥル語から英語への翻訳および、インタビュー内容の分析を実施した。

2) 平成 21 年度→22 年度（繰越）実施分：

平成 22 年 12 月 19 日から平成 23 年 1 月 2 日まで、南インド・カルナータカ州マンガロール市近郊の村落部にて、19 世紀における土地利用および税制と母系制、ならびにプータ祭祀の関係についてフィールドワークを行った。この調査において、マンガロール市の Deputy Commissioner's Office に保管されていた植民地期の貴重な公文書を収集し、当時の税制と土地利用、地券所有者の選定についての詳細な分析を実施した。この資料の分析から、植民地期以降の母系制社会における女性の「地主化」という現象を示す結果が得られた。

3) 平成 22 年度実施分

平成 22 年 5 月には、南インド沿岸部における重要な神霊祭祀であるプータ祭祀を律する法とその実践について、伝統的な慣習法（カトゥ）ならびに英国統治期以降の近代法の関係に関する研究結果をまとめ、学術誌『文化人類学』に投稿・受理された。また、平成 23 年 1 月 25 日から平成 23 年 3 月 8 日まで、スコットランドのエジンバラ大学南アジア研究センターに在籍し、南インドの神霊祭祀と英国植民統治に関する文献研究を行った。これらの研究はいずれも、英国による南インドの植民地支配と、これに対する在地社会からの複層的な応答と対処のあり方をプータ祭祀の変容に焦点を当てて明らかにしようとするものである。植民地化による在地社会の変容に焦点を当てた従来の研究の多くは、在地社会の政治経済分析に偏重する傾向があった。これに対して本研究は、領主層による土地の支配と資源の再分配、母系制社会における女性の生殖力の管理、および在来神の祭祀システムの支配と密接に結びついたプータ祭祀を中心として、人々の信仰や儀礼という側面から 19 世紀以降の南インドの社会変化を分析する視座を提起するという点で重要である。

4) 平成 23 年度実施分

平成 23 年 4 月には、国際学会(AAS with ICAS)にてポストコロナル・インドにおける社会運動についてのパネル発表を行った。7 月から 9 月にかけてスコットランドのエジンバラ大学南アジア研究センターにて在外研究を行い、イギリスのインド支配と宗教政策に関する文献研究を行った。また、当センターの南アジア研究セミナーにて南インドの神霊祭祀と母系制、近代法に関する研究発表を行った。同年 10 月 1 日には、日本南アジア学会第 24 回全国大会にて、「南インドにおける近代法と『母系制』の再編：アリア・サンターナ法とプータ祭祀の関係を中心に」と題する研究発表を行った。また、南インドにおけるプータ祭祀の実践を題材として、「呪術的世界の構成——自己制作、偶発性、アクチュアリティ」と題する論文を春日直樹編『現実批判の人類学』（世界思想社）に掲載した。同時に二本の英語論文を執筆し、それぞれを国際学術誌に投稿した。これらの成果はいずれも、南インドの神霊祭祀を植民地化と近代化との関連から動態的に捉えなすとともに、これまで総合的な研究が稀少であった南インドの母系制と神霊祭祀、地域の土地利用の関係を明らかにしたという点において重要である。また、2 月 22 日から 3 月 17 日まで、カルナータカ州マンガロールにてプータ祭祀と土地利用に関する現地調査を行った。今回の調査において、調査地域の神霊祭祀・伝統的土地利用と環境問題の関連という新たな調査テーマに取り組み、その結果、調査地域の広大な領域を占有する石油精製・石油化学プラントと経済特区の存在が神霊祭祀に与える甚大な影響と、また逆に、神霊祭祀の論理とエイジェンシーが近代化学工業の内部に入り込み、その一部を左右するという事態が生じていることが明らかになった。

5) 平成 24 年度実施分

2012 年 8 月から 9 月までと 2013 年 1 月から 3 月まで、マンガロールにて現地調査を行った。この調査では、経済特区の建設によるプータ祭祀の変容と環境運動の関係について、さらに調査を進展させた。具体的には、開発に反対する環境運動家、立ち退きの対象となった農民、開発を担う企業の雇用者とマネジャーといった多様な人々へのインタビューを実施するとともに、開発現象に介入するプータの託宣の内容を採録・分析した。また、論文執筆と並行して、調査内容をまとめた著書の執筆を開始した（現在も執筆中）。

6) 平成 24 年度→25 年度（繰越）実施分：

平成 25 年 6 月には、マカオで開催された ICAS8(The Eighth International Convention of Asia Scholars)にて、南インドの神霊祭祀と反開発運動に関する研究発表を行った。9 月には、京都大学人文科学研究所にて Acting with Nonhuman Entities と題する国際シンポジウムを開催し、発表を行った。また、11 月には

シカゴで開催された The 112th AAA Annual Meeting にて、Worlding with the Body と題するパネルの一環として、神霊祭祀と開発事業との絡み合いに関する発表を行った(このパネル発表についてのインタビューは、*Cultural Anthropology* の下にある *Anthropod* という電子媒体で公開されている)。上述した国際学会とシンポジウムでの発表を発展させ、二本の英語論文を執筆した。人間と神霊のパスpekティブの変換に焦点を当てた論文を *Journal of Royal Anthropological Institute* に投稿し、受理・掲載された。また、神霊祭祀と開発事業の関係をリスク・コミュニケーション論と物語論の視座から論じた論文を『社会人類学年報』に投稿し、受理・掲載された。これらの論文は南インドにおける神霊祭祀の現状と特徴を詳細に記述したのみならず、神霊祭祀と村落社会のポリティカル・エコノミーとの絡み合いや、大規模開発との関係を明らかにしたものである。平成26年2月下旬から3月中旬まで、南インド・カルナータカ州マンガロール郊外の農村部で調査を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5件)

石井美保 2013 「神霊が媒介する未来へ—南インドにおける開発、リスク、ブータ祭祀」『社会人類学年報』VOL-39 pp.1-27.

Miho Ishii 2013 Playing with perspectives: spirit possession, mimesis, and permeability in the buuta ritual in South India. *Journal of the Royal Anthropological Institute* 19(4): 795–812.

Miho Ishii 2012 Acting with things: Self-poiesis, actuality, and contingency in the formation of divine worlds. *HAU: Journal of Ethnographic Theory* 2 (2): 371–88.

石井美保 2010 「神霊との交換—南インドのブータ祭祀における慣習の制度、近代法、社会的エイジェンシー」『文化人類学』第75巻1号 pp.1-26.

石井美保 2009 「序—メタモルフォーシスの人類学」『文化人類学』第74巻3号 pp.414-422.

[学会発表](計 8件)

Miho Ishii, 'The Chiasm of Machines and Spirits: Buuta Worship, Mega-Industry, and Embodied Environment in South India', The 112th AAA Annual Meeting, November 20, 2013, Chicago Hilton.

Miho Ishii, 'Embodied Spirits in Industry: Spirit Possession, the Anti-development Movement, and the Special Economic Zone in South India', ICAS8 (The Eighth International Convention of Asia Scholars), June 25, 2013, Venetian Macao-Resort-Hotel.

石井美保 「開発と神霊—南インドのブータ

祭祀における野生、機械、環境ネットワーク」日本文化人類学会第46回研究大会、2012年6月23日、広島大学

石井美保 「開発と神霊—南インドにおける憑依、環境運動、経済特区」NIHU プログラム 現代インド地域研究 2012年度国内全体集会 2012年11月24日、京都大学

石井美保 「インドにおける血液・贈与・『コミュニティ』」国際シンポジウム「人種神話を解体する」人文科学研究所 2012年12月16日、京都国際会館

石井美保、日本南アジア学会第24回全国大会、「南インドにおける近代法と『母系制』の再編：アリヤ・サンターナ法とブータ祭祀の関係を中心に」2011年10月1日、大阪大学

Miho Ishii, *Social Movements in Postcolonial India: Discussion* (Panel: Social Movements in Postcolonial India 2) A Special Joint Conference of the Association for Asian Studies (AAS) with the International Convention of Asia Scholars (ICAS), Hawaii Convention Center, Honolulu, Hawaii, USA, 2nd April, 2011

Miho Ishii, *Traces of Reflexive Imagination: Matriliney, Modern Law, and Spirit Worship in South India*, South Asian Studies Seminar, Centre for South Asian Studies, University of Edinburgh, 20th Sep, 2011

[図書]【分担執筆】(計14件)

Miho Ishii 2014 'The chiasm of machines and spirits: būta worship, mega-industry, and embodied environment in South India', *Ecologies of Care: Innovations through Technologies, Collectives and the Senses* (Readings in Multicultural Innovation Volume 4). Gergely Mohácsi (ed.). Osaka: Osaka University, pp. 239-256.

石井美保 2014 「イギリス帝国とインド人兵士—『マーシャル・レイス』に就いての第一次世界大戦」山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編『世界戦争(現代の起点 第一次世界大戦 第1巻)』、岩波書店

石井美保 2014 「呪物の幻惑と眩惑」田中雅一編『越境するモノ(フェティシズム研究2)』、京都大学学術出版会

石井美保 2013 「パースpekティブの戯れ—憑依、ミメシス、身体」菅原和孝編『身体化の人類学—認知・記憶・言語・他者』、世界思想社

石井美保 2012 「虚焦点としての真正性—ガーナの神霊祭祀におけるディアスポラ司祭とガーナ人司祭との交渉を通して」田中雅一・小池郁子編『コンタウトゾーンの人文学—Religious Practices/宗教実践—』第1巻、晃洋書房、pp. 3-24.

石井美保 2012 「マミワタ」井上順孝ほか編『世界宗教百科事典』丸善

石井美保 2011 「伝統宗教、呪術と現代社会—

ガーナ南部の精霊祭祀とオコンフォたち」高根務・山田肖子編『ガーナを知るための47章』明石書店、pp.177 - 181.

石井美保 2011「呪術的世界の構成—自己制作、偶発性、アクチュアリティ」春日直樹編『現実批判の人類学』世界思想社、pp.185-206.

石井美保 2011「未来のポイエーシースト占における物語行為と時間」西井涼子編『時間的人类学—情動・自然・社会空間』世界思想社、pp.334-357.

石井美保 2010「呪物をつくる、世界をつくる—呪術の行為遂行性と創発性」花淵馨也・石井美保・吉田匡興編『宗教の人類学』春風社、pp.159-179.

石井美保 2010「精霊の誘惑、図像との交感—ガーナにおけるマーミワタ・イメージをめぐって」落合雄彦編『スピリチュアル・アフリカ—多様な宗教的实践の世界』(龍谷大学仏教文化研究所叢書 25) 晃洋書房、pp. 105-129.

石井美保 2009「フェティッシュ」日本文化人類学会編『文化人類学事典』丸善 pp.261-262.

石井美保 2009「憑依と間身体性」日本文化人類学会編『文化人類学事典』丸善 pp.516-517.

石井美保 2009「呪力の競合」日本文化人類学会編『文化人類学事典』丸善 pp.586-587.

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.mihoshiianthropology.com/>

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/zinbun/members/ishii.htm>

<http://www.anth.jinkan.kyoto-u.ac.jp/prof.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

石井美保 (Miho Ishii)
京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：40432059

(2)研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：